

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3591000025		
法人名	有限会社 兼清メディカルサービス		
事業所名	グループホーム兼清		
所在地	山口県光市光ヶ丘3番6号		
自己評価作成日	令和 2年 11月 16日	評価結果市町受理日	令和3年5月21日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
聞き取り調査実施日	令和 3年 1月 13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

看護と介護による日々の健康チェックや内服管理、協力医療機関による訪問診療や緊急時の対応など医療と介護で密に情報交換・共有など連携をとり、看取りの支援まで適切な医療が受けられるように支援しています。毎月、季節に応じた事業所内での行事の開催や外出の支援、ボランティアや小学生の慰問など楽しみがもてるようにしたり、併設の事業所との交流が図れるよう合同での行事開催、レクリエーションの実施等も行っていきます。また、毎日機能訓練として身体体操、口腔体操を実施し心身機能の維持や活動性の向上ができるように努めています。家庭的な環境のもと、一人一人の居場所が自由に選択でき、1日がゆったりとして流れて生活ができるように支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

コロナ禍による外出制限や面会の制限で、利用者の活動性の低下を招きかねないと、屋内での機能訓練や体操、余暇時間に花札やトランプなどを取り入れられ、利用者との小人数での関わりを強化しておられます。教員であった利用者他に他の利用者が計算したドリルの採点をしてもらう、字を書くことが好きな利用者、ホワイトボードに1日の日課を書いてもらう、利用者が育てられている野菜の成長過程が見えるように、居室内の窓から見えるようにプランターを配置されるなど、その人の力や趣味を活かして、やりがいや楽しみごとの支援をしておられます。運営推進会議で、避難訓練について「火災に限らず、地震にも迅速に対応できるように備えておくべきでは」との意見を得られ、防災マニュアルの見直しや、備蓄品等の整備、地震発生時の避難誘導方法等について再確認をされるなど、意見をサービス向上に活かしておられます。利用者が笑顔で日々を過ごすことができるように、職員の勤務シフトや休日、休憩時間等の改善を図られ、職員自身が笑顔で支援に取り組むよう努めておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	経営理念に沿い、「社会参加ができる」を事業所目標として支援している。また、経営理念や事業所目標は毎月開催される重役会議において年1回は振り返りを行っている。また、経営理念は毎年1回、法人全体の研修において振り返りを含めた共有を行い、日々のケアの実践につなげている。	地域密着型サービスの意義をふまえた法人の理念を事業所内に掲示している。法人研修会で、年1回、職員が理念について話し合っ て理念の共有に努めている。事業所目標をつくり、地域の一人として利用者の安心で安全な環境づくりを意識して取組むよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	近隣の総合病院や婦人科とは、事業所の受入可能要件や利用者の入退院の情報をこまめに情報共有を行い、医療と介護、両者の連携が強化できるようにしている。また、散歩などの外出により地域の方と話をしたりするなど交流を図っている。	この1年間は、地域の行事や近隣施設で共催するチャリティまつりは中止となり、利用者も職員も参加できていない。毎年、家族も参加する法人の夏祭りを開催しているが、今年は利用者のみで開催している。年1回、小学生が来訪している。月1回、傾聴ボランティアの来訪があるが、4月以降は中止としている。近隣の医療機関と、個別に医療や介護の情報を共有し、連携を強化している。新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、地域の人との交流はできにくい状況にある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議において、認知症の人の支援方法について理解を深めていただけるように努め、また、近隣の小学校で実施される、認知症サポーター養成講座に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	外部評価の意義を理解した上で、職員一人一人が自己評価を行い、自己評価をもとに事業所評価を行っている。また、外部評価結果をもとに、それぞれの評価項目について、改善検討等を行い実践に活かすよう努めている。	管理者は、月1回の職員会議で評価の意義について職員に説明し、不参加者には議事録やガイド集を回覧して、評価の意義と項目の理解に努めている。全職員に評価のための書類を配布し、記入したものを管理者がまとめている。前回の外部評価後は、役職職員で検討すべき課題について意見交換をし、全職員に伝えて共有している。評価の過程で、コロナ禍による外出制限や面会の制限が、利用者の活動性の低下を招きかねないと、屋内での機能訓練や、余暇時間での花札やトランプなど個別や小集団での利用者との関わりを強化するなど、取り組みにつなげている。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者の状況やサービスの取り組みについて報告を行っている。感染症の感染防止策や感染者が発生した場合の対応など会議において出た出席者からの情報やアドバイスなどを日頃の支援に活かすよう努めている。	会議は2ヶ月に1回、併設の小規模多機能型居宅介護事業所と合同で開催している。利用者の状況や行事報告および予定、会議、研修、事故・ヒヤリハット報告などを行い、情報交換をしている。コロナ禍により、3月、5月、9月、11月は開催を見送り、書類送付としている。面会を制限している状況の中で、家族との面会や連絡手段について意見を得ている。避難訓練について、「火災に限らず、地震にも迅速に対応できるように備えておくべきでは」との意見を得て、防災マニュアルの見直しや、備蓄品等の整備、地震発生時の避難誘導方法等について再確認をするなど、意見をサービス向上に活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議時や役所へ出向いた時に直接意見交換を行っている。又、問題や相談があるときにはその都度電話で連絡を取り、密に協力関係が築けるようにしている。	市担当者とは、運営推進会議時の他、直接出向いたり電話などで相談して助言を受けたり、意見交換をして、協力関係を築くように取り組んでいる。地域包括支援センター職員とは、市主催の介護支援専門員研修時や地域包括支援センター運営協議会を通じて情報交換を行い、利用者に関する相談等を行って、連携を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所内研修で、身体拘束についての概要や禁止の対象となる事項などを行い、研修資料は全職員が理解できるよう回覧している。ケアの振り返りを定期的実施し、身体拘束が発生しないよう取り組んでいる。	「身体拘束防止マニュアル」があり、年1回、身体拘束について内部研修を行っている。月1回、カンファレンス時に「身体拘束に関する会議」を行い、意見交換をしている。日々の申送りケアの振り返りを行い、身体拘束をしないケアを意識して支援に取り組んでいる。スピーチロックで気になる場所があれば、管理者や主任が、その都度指導している。玄関の施錠はせず、利用者が外に出たいと思っていることを察知した時は、職員と一緒に外出している。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ざれることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を行い、職員全員が正しく理解を深めている。虐待のサインを見逃さないよう入浴時や着脱時には身体チェックを欠かさないようにしている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	それぞれの制度について研修を行い、両方についての違いを含めて職員が正しく理解できるように取り組んでいる。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	初回相談時に事業所の詳細を説明、見学をしていただいている。契約時には、疑問点がないかを尋ね、理解・納得を得るように努めている。また、契約以降も定期的に面会時等で疑問点がないか尋ねるようしている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の方が面会時等に、近況や状態を報告し、気軽に意見や要望が言えるような関係性作りに努めている。又、直接伝えづらい場合には、玄関に置いてある用紙に記入して頂けるように準備している。意見や要望を受けた場合には、記録に残すと同時に必要があれば市へ相談を行っている。	契約時に、相談や苦情の受付体制、処理手続きなどを家族に説明している。玄関に、意見や要望を記入する用紙を備えている。日頃から、面会時や電話で利用者の近況や状態を伝え、家族が気軽に意見や要望が言えるよう努めている。意見や要望を受けた場合、その家族だけに回答をするのではなく、他家族へも、その意見や要望、対応策を説明するよう努めている。日頃の様子をメールで伝えてほしいという家族に、管理者が細やかに発信している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回、各部署の介護主任または責任者と管理者で重役介護を開催し、その中で職員の意向などに関する報告相談を受けて、代表者へ報告をあげ反映させている。	月1回の職員会議や毎日の申し送り、随時行うケアカンファレンスで、職員の意見や提案を聞いている。毎月1回、重役介護(各部署の介護主任または責任者と管理者)を開催し、職員の意見や提案などに関することを検討し、代表者に報告して、運営に反映させている。車を使用する外出支援を強化したいとの意見があり、家族も含めた人数での外出を支援できるよう、法人として大型免許の取得を支援し、コロナ禍以降の外出行事を検討するなど、意見を運営に反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	現場での職員個々の力量や勤務状況を把握し、それに応じた勤務内容や勤務形態にし、働きやすい職場環境づくりに取り組んでいる。また、年2回の職員評価制を導入し、評価に応じて昇給や賞与の反映させている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人として資格取得に対する支援を行い、内部研修や外部研修への参加により、職員一人一人の向上を図るよう努めている。また、研修記録を作成し、全職員が理解を深めるよう回覧している。	外部研修は、職員に情報を伝え、段階や希望に応じて、業務の一環として受講の機会を提供している。今年、介護支援専門員研修会に参加している。法人研修は、食事の介護、コミュニケーション技術について実施している。法人として資格取得に対する支援を行っている。内部研修は、月1回、管理者が講師となって、個人情報保護、プライバシー保護、小規模多機能型居宅介護、認知症対応型共同生活介護、救急処置などをテーマに実施している。コロナ感染防止対応で開催できなかった月は、「コミュニケーション」「基本的な介護技術」などについて、課題レポートを提出してもらっている。新人は、初勤務日に管理者や介護主任が事業所の概要等を説明し、介護現場で介護福祉士の資格を持つ指導職員が業務の中で指導している。研修内容等は事業所専用の様式に記載して提出し、職員間で確認している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部での研修へ参加する機会を設け、その中のグループワークを通じて同業者と交流する機会がある。また、グループホーム連絡協議会に管理者と職員が参加しており、他事業所の取り組みなどを把握している。		
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に家族との面談を行い(可能であれば本人も含め)、本人、家族の希望や要望、不安等を聞き、要望に合わせたサービスの提供に努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族との面談で、家族の困っていることや不安、要望をしっかりと聞き、少しでも安心してサービスを受けて頂けるように努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面談時、本人と家族のニーズをしっかりと見極め把握し、必要としているサービスを提供できるような対応に努めている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者それぞれに合った役割を提供し、本人に馴染みのある軽作業(洗濯物たたみ、ゴミ袋作り)など職員も一緒になって行い、共に支え合いながら生活できるよう支援している。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時や遠方の家族の方には電話連絡で、本人についての近況を伝えるようにしている。また、本人や家族から要望がある場合等、電話で会話ができるよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	夏祭りやもちつきなどの行事へ家族の参加をして頂いたり、年賀状の作成支援や行きつけの病院や理美容室が利用できるよう家族に協力を得ながら、関係継続に努めている。	家族の面会や親戚、知人の来訪があり、電話の取次ぎや手紙の代読、携帯電話使用の支援などで、交流を支援している。例年家族の参加を得ている夏祭りは、今年は利用者のみで行っている。面会や外出、地域の人々の来訪等が制限される中で、意識的に電話の取次ぎなどを行い、家族との会話で安心感を持ってもらうように努めている。面会制限を知らずに面会に来た場合には、感染防止対策をした上で、初回のみ玄関での面会を実施するなど、馴染みの人や場所との関係が途切れないう支援に努めている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人ひとりの性格や利用者同士の関係性を理解し、孤立しないようにし、なるべく良好な関わり合いを持つことが出来るよう努めている。(席順やレク時のグループ作り等)		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了した場合でも、その後の経過を見守り、必要に応じて相談にのっている。		
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	サービス開始前には、本人、家族の意向を聞き取り意向に沿うよう支援している。また、日々のコミュニケーションなどのかかわりから、意向や要望が出れば、送り等で情報共有し、できる限り意向に沿うようにしている。	入居時のアンケートで生活歴や趣味などを聞き、事業所独自の様式を活用して、アセスメントしている。日々の関わりの中での利用者の言動などの気づきを、介護日誌に色分けして記載し、申し送りやミーティングで検討して、職員間で共有し、本人や家族の思いや意向の把握に努めている。把握が困難な場合は、家族から聞いたり、友人や知人が来訪したときに生活歴などの情報を聞き、申し送りやミーティングで話し合っ、本人本意に検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始前に以前の生活歴や暮らし方、趣味などのアンケートをとり、利用開始後も本人や家族とコミュニケーションを図り、不足している情報や利用経過などの把握に努めケアにつなげている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日、状態を記録に残し、職員全員が把握できるようにしている。いつもと違うと感じたときには「介護・看護記録」へ詳しく記録するようにしている。又、「利用者生活状況」のシートを活用し、状態をこまめにチェックし把握するようにしている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議を定期的開催し、本人や家族の意向に沿うよう、医師、看護師など多職種の見解を総合して介護計画を作成している。1ヶ月に1回はモニタリング、再アセスメントを行い、ケアの見直し、改善を検討している。また、日々の申し送りや記録で状態や状況の経過の情報を共有し、現状に応じたケアができるよう努めている。	計画作成担当者と介護主任を中心に、担当者会議を行い、本人や家族の思いや意向、主治医や看護師、薬剤師の意見を参考に話し合い、介護計画を作成している。利用者を担当している職員がケアワークシートに、具体的なケアを記載し、カンファレンスで実践状況を話し合っている。計画作成担当者が1ヶ月に1回モニタリングと再アセスメントを行い、3ヶ月から6ヶ月ごとに見直しをしている。利用者の状態に変化があったときには、その都度見直し、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの内容は個別に記録し、把握できるようにしている。この記録をもとに、介護計画を作成、見直しを行っている。又、全職員が共有したい大事な情報は「申し送りノート」に記入し、引き継ぎを行っている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の身体的状況の変化が起こった場合の病院への受診等は家族へ意向を聞き、家族のニーズに合わせて対応している。定期的なモニタリングや再アセスメントを行い、ニーズの把握に努め、柔軟に対応できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア(水墨画)、小学生来訪、高校・専門学校の実習等を積極的に受け入れ、利用者の持っている能力を発揮できるような環境づくりに努めている。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医による訪問診療を月2回受け、また状態変化に伴う突発的な受診や主治医への連絡体制を整え、安心して医療が受けられるようにしている。また協力医療機関と合同の会議を毎月1回開催し、医療連携の強化に努めている。	全ての利用者が、事業所の協力医療機関をかかりつけ医とし、月2回の訪問診療を受けている。訪問診療や受診時には看護師が付き添い、家族に電話や面会時等に報告している。他科は家族の協力を得て受診の支援をしている。夜間や緊急時は、管理者や看護師を中心に対応し、協力医療機関と連携して、適切な医療が受けられるよう支援している。協力医療機関と合同の会議を月1回開催し、医療連携の強化に努めている。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職、介護職による毎日の健康チェックや状態観察を行い、変化があれば看護職へ報告、受診をしている。また、申し送り等で経過や内服変更等の情報を共有している。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際、日頃からの状態や状況の経過を含め、情報を提供している。入院中には、面会で本人の状態を確認したり連携室へ経過を確認している。また、事業所の空き状況を日頃からこまめに連携室へ伝えるなど関係の構築に努めている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化についての指針を家族に説明している。終末期には、再度意向の確認し、本人・家族の要望に沿った対応ができるよう医療機関の協力のもと出来るかぎり対応している。状況変化に迅速に対応できるよう、こまめに家族と話し合いを行い、方針を共有して支援できるよう努めている。	契約時に「重度化対応、終末期および看取りについての指針」に基づいて、事業所でできる対応について家族に説明している。実際に重度化した場合は主治医と話し合っ、家族に改めて意向を聞き、同意書を得ている。利用者の変化に迅速に対応できるよう家族と話し合いを重ね、全職員でカンファレンスを行って、方針を決めて共有して支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人 ひとりの状態に応じた事故防止に取り組む とともに、急変や事故発生時に備えて、全 ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定 期的に行い、実践力を身につけている。	事故やヒヤリハットが発生した場合は、事故・ ヒヤリハット報告書に記録し、状況や今後の 対応策を検討している。報告書は、回覧し全 職員が共有できるようにしている。また、事業 所内研修で、リスクマネジメントや心肺蘇生 法など緊急対応の研修や訓練を定期的 に行い日頃の支援に努め、実践できるように している。	事例が生じた場合は、その場の職員が事故 報告書やヒヤリハット報告書に記録し、昼の ミーティングで対応策を再検討している。報告 書は回覧し、全職員が共有している。看護師 の協力を得ての内部研修や避難訓練時に、 救急処置、心肺蘇生法、感染症蔓延防止、ト リアージを含む初期評価などについて学ん で、迅速な対応に努めているが、全職員が 応急手当や初期対応の実践力を身につけて いるとはいえない。	・全職員が応急手当や初期対応の実 践力を身につけるための定期的訓練 の継続
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問 わず利用者が避難できる方法を全職員が 身につけるとともに、地域との協力体制を築 いている	通報訓練、消火訓練、避難誘導の火災避難 訓練を利用者と一緒に、昼・夜の想定で年2 回、実施している。訓練を実施する際には、 運営推進会議の推進委員に参加の協力を 要請し、訓練後には意見を交換を行っている。 また訓練以外でも、事業所内研修で、災 害についての知識の向上を図っている。	併設の小規模多機能型居宅介護事業所と合 同で、年2回、昼夜の火災を想定した、消火、 通報、避難誘導の訓練を利用者も参加して 行っている。運営推進会議が中止となり、メン バーの訓練への参加はなかったが、火災に 限らず、地震にも迅速に対応できるように備 えておくべきでは、という意見を得て、防災マ ニュアルの見直しや備蓄品の整備、地震発 生時の避難誘導方法等について確認してい る。市グループホーム協会で災害時の相互 協力について検討している。近隣の法人事業 所等との協力体制がある。	・地域との協力体制の充実
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバ シーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりのその人らしさを大切に し、その方に合った対応をし柔軟な支援を 行っている。又、言葉遣いには気を付け、自 尊心を傷つけないように注意している。申し 送りや職員同士の情報交換の際には利用 者の耳に入らないように注意している。	職員は利用者一人ひとりの人格を尊重し、誇 りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応 を心がけている。内部研修で個人情報保護、 プライバシー保護について学び、書類の管 理等に配慮し、守秘義務を遵守している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表し たり、自己決定できるように働きかけている	利用者がど些細な事でも言いやすいような 関係性や雰囲気作りを心がけている。利用 者が希望を表わすことができるように声掛け を行い、自ら決めてもらえるような支援を行っ ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の過ごし方は本人に決めてもらうようにしている。集団レクを行う際には全員に声掛けを行い、状態と気分次第で本人に参加の有無を決めてもらっている。また、なるべく部屋でこもった状態にならないよう上手く声掛けし、ホールに出てもらえるよう促している。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	能力的に可能な利用者に対してはコミュニケーションを取りながら、一緒に服選びを行っている。できない利用者に対しては、家族から得た情報を基にしたり、職員が本人の好みと気分に合わせてその人らしい身だしなみができるよう支援している。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みや体調に合わせて随時食事形態や内容を変更・改善している。季節感や利用者の好みを取り入れたメニューを提供し、「おいしく楽しく食べる」ことが出来るよう調理師が調理をするなどの支援している。又、下膳の支援や行事の時には利用者と職員と一緒にお菓子作りをしたり野菜の皮むきなど下ごしらえを一緒に行っている。	事業所で育てた野菜(きゅうりやなすなど)を食材として活用して、三食とも事業所で調理している。契約時にアンケートで、好きな食物や苦手な食物を聞いて献立に反映させたり、利用者の状態に合わせて見た目にも配慮したソフト食を提供するなどの工夫をしている。利用者は、野菜の皮むきや下膳など、できることを職員と一緒にしている。節句のちらし寿司や年越しそばなど季節に応じたメニューや希望に合わせた誕生日会のおやつ、おやつづくり(団子、カボチャプリン、ホットケーキ)など、食事を楽しめるよう支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの摂取量を毎回記録し、必要な食事、水分量摂取できているかをチェックを行っている。身体状況などに合わせて食事形態を変更し、必要な栄養を補給できるよう栄養士が献立をたてるなど支援している。水分摂取を拒否する利用者に対しては原因を考え、好きなものに変えてみたり、ゼリーにしてみたりと工夫し、出来る限り摂取できるよう工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きへの声掛け・誘導を行い、食後の歯磨きが習慣となるように取り組んでおり一人ひとりの残存機能に応じた支援を行っている。(歯ブラシ、義歯洗浄、保管)その際に口腔状態や義歯のチェックを行っている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	事業所様式のチェック表に排泄時間等を記録し、一人ひとりの排泄パターンを把握できるように努めている。個々の状態に応じて、日中はトイレでの排泄を促したり、夜間はポータブルトイレを設置するなど、自立支援に努めている。	排泄チェック表を活用して、排泄パターンを把握し、一人ひとりに応じた声かけや誘導で、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。夜間のトイレ利用が多い利用者は、トイレから近い居室へと変更するなど工夫している。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘がちな利用者に対しては、乳製品を摂取してもらったり、水分摂取回数を増やしたり、なるべく薬に頼らない自然な排便ができるよう個々に応じた予防に取り組んでいる。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	利用者個々の身体状況や本人の希望に応じて、機械浴、一般浴、シャワー浴など柔軟に対応できるように努めている。また、空調管理や一般浴に、ひのき風呂を導入するなど安心、安全に入浴が楽しめるよう環境整備に努め、定められた事業所の入浴時間内であれば、好きな時間に入浴できるよう配慮している。	入浴は毎日、9時30分から11時30分の間可能で、週2回はゆっくりと入浴できるように支援している。利用者の体調に合わせて、併設施設の機械浴や、清拭、シャワー浴、足浴の支援をしている。この1年、入浴したくない人はいなかったが、拒否された時には、職員を入れ替えたり、日にちを変更する、言葉かけの工夫をするなど、無理強いしないよう、個々に応じた柔軟な支援をするようにしている。家族から贈られた柚子を使い柚子湯を楽しむ、足湯場を作るなど、入浴を楽しめるよう工夫をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の身体状態に応じて適度に休息して頂いている。夜間不眠がちな利用者に対しては日中の活動(好きな作業や会話等)を出来る範囲で増やし、なるべく薬に頼らないようにし、夜間良眠できるようにリズム作りを支援している。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は一人ひとりの処方されている薬が分かる一覧表に必ず目を通すようにしている。薬の処方の変更された時には申し送りで情報を共有し、状態の経過を観察、記録し、こまめに看護師へ報告するとともに、申し送りで全職員が共有できるようにしている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の好きなこと・やりたいことを見つけ出し、風船バレーや簡易式ボーリングなどの集団レクと併用し、習字や水墨画等、ボランティアの方にも協力して頂き、個々の趣味や能力に合わせた個別の支援を行っている。又、洗濯たたみ、ゴミ袋作り、水やり、園芸作業など能力に合わせた役割作りも行っている。	季節の行事(節分際、ひな祭り、端午の節句、七夕祭り、夏祭り、敬老会、ミニ運動会、クリスマス会、もちつき)、誕生日会、小学生の来訪、テレビやラジオ、CDの視聴、歌を歌う、カラオケ、体操、風船バレー、簡易式ボーリング、習字、水墨画、カルタ、貼り絵、ぬり絵、編み物、広告紙のゴミ箱づくり、洗濯物たたみ、テーブル拭き、野菜の下ごしらえ、野菜(スイカ、キュウリ、豆、トマト、なすび)や花の栽培と収穫、水やり、食事の配膳や下膳、入浴の着替えの準備、自室の掃除、教員であった利用者へ他の利用者が計算したドリルの採点をしてもらう、字を書くことが好きな利用者へ、ホワイトボードに1日の日課を書いてもらうなど、その人の力を活かして、楽しみごとや気分転換等の支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人一人の状態に応じて、事業所周辺又は事業所敷地内の散歩へ出たり、日光浴をしている。また、テレビで各名所の映像を見たり、雑誌等を閲覧したりして、各名所へ外出をした気分が味わえるよう支援している。	コロナ禍のため、初詣以来、近隣や事業所敷地内の散歩や外気浴、病院受診以外の外出は控えている。家族の協力を得ての受診については、基本的感染予防をした上で、外出してもらっている。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事業所内事務所で預り金の管理を行い、歯ブラシや歯磨き粉などの日常生活用品、おやつやジュースなどの食料品を利用者の要望を受け購入している。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	携帯電話を持ち込んで家族と電話をするなど、入居者の能力に応じて、自由に手紙や電話のやり取りができる様に支援している。また、年賀状の作成の支援も行い、家族等とのつながりが保てるよう支援している。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングから中庭が見え、自然を感じるができる。対面キッチンのため、調理の音やにおいて生活感を感じることができる。食堂や居室は毎日室温や湿度を確認・調整したり、ソファやテーブルは毎日又は食前・食後に消毒を実施し誰でも安心して自由に利用できゆっくりと過ごせるような環境づくりに努めている。	リビングは中庭から自然光が差し込んで、明るく広々としている。ソファやテーブル、椅子を設置して利用者がゆっくりと、自由に過ごせる空間となっている。利用者の作品(習字など)や日めくりカレンダーを飾り、季節の行事の飾り付けや、毎月変える油絵などを楽しめるようにしている。中庭には日向ぼっこ用の椅子を用意している。対面キッチンからは食事の準備の音やにおいが漂い、家庭的な雰囲気、自由な行動を支援できるように工夫している。ソファやテーブルは毎日、食前・食後に消毒を実施し、温度や湿度、換気に配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室は全室個室により、プライバシーが保たれている。ホールにはテーブル、ソファを設置し、席は固定せず、他者と会話を楽しんだりなど自由に過ごせるようにしている。面会時は家族と一緒に過ごせ、また、入居者同士のふれあい空間となっている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた馴染みのある家具や布団、衣類等を持ち込んでいただき、居心地良く暮らすことのできる空間作りを利用者・家族と共に考えている。又、本人や家族の写真、作成した作品、花などを飾り、より本人らしい空間となるように工夫している。	整理ダンス、衣装ケース、衣装かけ、椅子、テレビ、時計、ご位牌、コップなどの食器類、日用品などの、使い慣れたものや好みのものを持ち込み、家族の写真、カレンダー、本人の作品（ぬり絵、ぬり絵式カレンダー、貼り絵、段ボールで作った羽子板）などを飾っている。居室内の窓から本人が育てている野菜の成長過程が見えるようにプランターを配置するなど、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	事業所内はすべてバリアフリーになっており、廊下や洗面所、トイレ、浴室など各所に手すりを設置し、安全に安心して行動できるように配慮されている。又、居室での転倒が多い利用者に対しては家具の配置を工夫し、必要な方は福祉用具を活用し安全かつ自立した生活が出来るよう支援している。		

2. 目標達成計画

事業所名 グループホーム 兼清

作成日: 令和 3 年 5 月 22 日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	応急手当や初期対応の実践力を身につけるための定期的な訓練の実施。	全職員が初期対応や応急手当を実践できるようになる。	定期的な内部研修の実施、外部研修へ参加の確保など、より実践に近い状況で学ぶことで実践力を身につける。	12ヶ月
2	36	地域との協力体制の構築。	地域との関係構築に努め、事業所の避難訓練参加に結びつける。	運営推進会議と同時に訓練を開催し、重ねて地域からの参加の呼びかけを行う。	12ヶ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。